

Shining Achievers

～考える技・書くスキルの授業がスタート！～

今週から、考える技と、書くスキルの授業が始まりました。

SOLAN小学校の授業時間は、15分、30分、45分、90分など、学習内容によって変化します。漢字（今はひらがなとカタカナの学習）や数（計算の反復）、情報（iPadのスキルや情報モラルの習得）などの学習は、15分×3コマのモジュールの時間として毎日設定し、基礎的な学習スキルを児童が集中して習得できることを狙いとしています。4月は、文字習得に力を入れていたため、多くの時間を「ひらがな」の学習に割いていましたが、5月から、「考える技」と「書くスキル」の学習が始まりました。

「考える技」の初回のオリエンテーションでは、「考える」とは何かをみんなで考えました。「考えるって、想像することじゃない?」「考えるって、思い出すことだよ」「思い出すことじゃなくて、思い出せない時が”考える”だ」と思う」など、教師の想定を超える児童の発言の広がりには驚きを感じると共に、今後の成長がより楽しみになりました。

2回目の授業では、「ベン図」という思考ツールを使って、りんごとバナナを比べました。SOLAN小学校で扱う思考ツールは全部で12種類あります。「考える技」の授業で思考ツールの使い方を学習し、教科学習やプロジェクトの時間に活用する方法を学んでいきます。

今回は、りんごとバナナを「色、形、種類」の3つの視点で比べました。子どもたちは、「視点」という言葉を学習し、また自分で新しい視点も考えました。「”食べ方”という視点で比べると、りんごは皮をむかないけど、バナナは皮をむく」という鋭い視点や、「おいしさで比べると、どっちもおいしい」など、微笑ましいものもありました。「考えることを考える時間」という難易度の高い課題に、一生懸命取り組んでいる子どもたちの姿が印象的でした。

書くスキルの初回のオリエンテーションでは、書くスキルは、「みんながなるほど!」と思うような、伝わる文章を書く時間だということを、子どもたちと共有しました。授業は、1週間に1回、30分間あります。この時間を使って、論理的な文章を書けるよう、指導していきます。

初回の授業では、絵の中のキャラクターの様子を「_____が_____。」のフォーマットで書きました。先日、やっとひらがなを習い終わったばかりの子どもたちは、「先生、”ぬ”ってどう書くのか分からなくなった。」「ちょう?ちょうちょ?」など、苦労しながらも、一生懸命文章を書いていました。

子どもたちは、できることがどんどん増えてきています。今後も、子どもたちと一緒に、楽しんで学んでいきたいと思えます。